5-5 水循環

5-5-1 現況

大気から雨となって地中、河川等を経て海域に向かう水の循環は、河川・地下水の水量の確保、気候の緩和、土壌や流水による水質の浄化、多様な生態系の維持という環境保全上重要な機能をもっている。しかし、都市化の進展に伴い、不浸透域の拡大により雨水の地下浸透が妨げられ河川の流量の減少や湧水の枯渇が進行している。このため、東京都では雨水を地下へ浸透させるための方法等について定めた「東京都雨水浸透指針」を平成13年に策定し、地下水の保全を図っている。

会場の施設が水環境に与える影響については、水循環の指標となる雨水の浸透能力について、地表面被覆率で評価する。現況の被覆率について「東京都都市計画地理情報システム 平成18年度土地利用現況（区部）及び平成19年度土地利用現況(多摩部)」を用い会場毎に整理した。

被覆率は、会場内の不浸透域の面積を会場面積で除して算出した。不浸透域は、住宅や工場などの建築物の他、道路、鉄道、屋外利用地等とした。

なお、周辺が水域で囲まれた埋立地の地表面被覆率は、自然の水循環(河川等及び地下水など)に対して影響を与えることはないため、そのような場所に立地する会場は予測評価の対象外とした（図 5-5-1参照）。また、サッカーの予選会場である札幌ドーム、宮城スタジアム、埼玉スタジアム 2002 及び横浜国際総合競技場の４会場と東京国際フォーラム及び霞ヶ関カンツリー倶楽部については、既存施設の利用が主体であるため、予測評価の対象外とした。

現況の被覆率を表 5-5-1に、現況として使用した図面を図 5-5-2(p5-5-3～p5-5-6)に示す。

表 5-5-1　　現況の被覆率

会場№	会場名	会場面積（m²）	被覆面積（m²）	被覆率（%）	備考
1	オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)	583,400	419,600	71.9	新設及び仮設設置(会場エリア一体として計算)
2	東京体育館				
3	国立代々木競技場	582,500	114,300	19.6	仮設設置
4	日本武道館	146,700	36,700	25.0	改修及び仮設設置
5	皇居外苑	102,900	36,200	35.2	仮設設置
7	国技館	64,100	63,300	98.8	仮設設置
29	武蔵野の森総合スポーツ施設	279,100	178,600	64.0	新設及び仮設設置(会場エリア一体として計算)（注2）
30	東京スタジアム				
31	武蔵野の森公園	151,700	24,400	16.1	仮設設置
32	陸上自衛隊朝霞訓練場	203,900	－	－	現況被覆率不明(注3)

注1）被覆面積については、10の位で四捨五入している。なお、会場面積は運営境界（Operational Perimeter）内とし、10の位で四捨五入している。武道館の会場面積に水域は含まない。

注2）武蔵野の森総合スポーツ施設及び東京スタジアムについては、土地利用図上では公園・運動場等になっている部分が2013年時点で舗装された駐車場等となっていることから(図 5-5 3(6)参照)現状を反映した。

注3）陸上自衛隊朝霞訓練場については、自衛隊施設のため、会場内の現況の被覆率は不明である。

地表面被覆率（%）＝被覆面積(不浸透域の面積)※1／会場面積※2

※1：土地利用区分(図 5-5-2の凡例参照)のうち、公園・運動場等(田、畑、樹園地、牧草放牧地、原野、森林)、未利用地等を浸透域、官公庁施設等(官公庁施設、教育文化施設、厚生医療施設、供給処理施設)、事務所建築物等(事務所建築物、専用商業施設、住商併用施設、宿泊・遊興施設、スポーツ・興行施設)、住宅(独立住宅、集合住宅)、工場(専用工場、住居併用工場、倉庫運輸関係施設、農林漁業施設)、屋外利用地(屋外利用地・仮設建物、その他)、道路・鉄道・港湾等(道路、鉄道・港湾等)を不浸透域（雨水が地中に浸透しないで流出する地域）とした。面積はＧＩＳソフトを用いて解析した。

※2：会場エリアのうち、水域を除く面積とした。

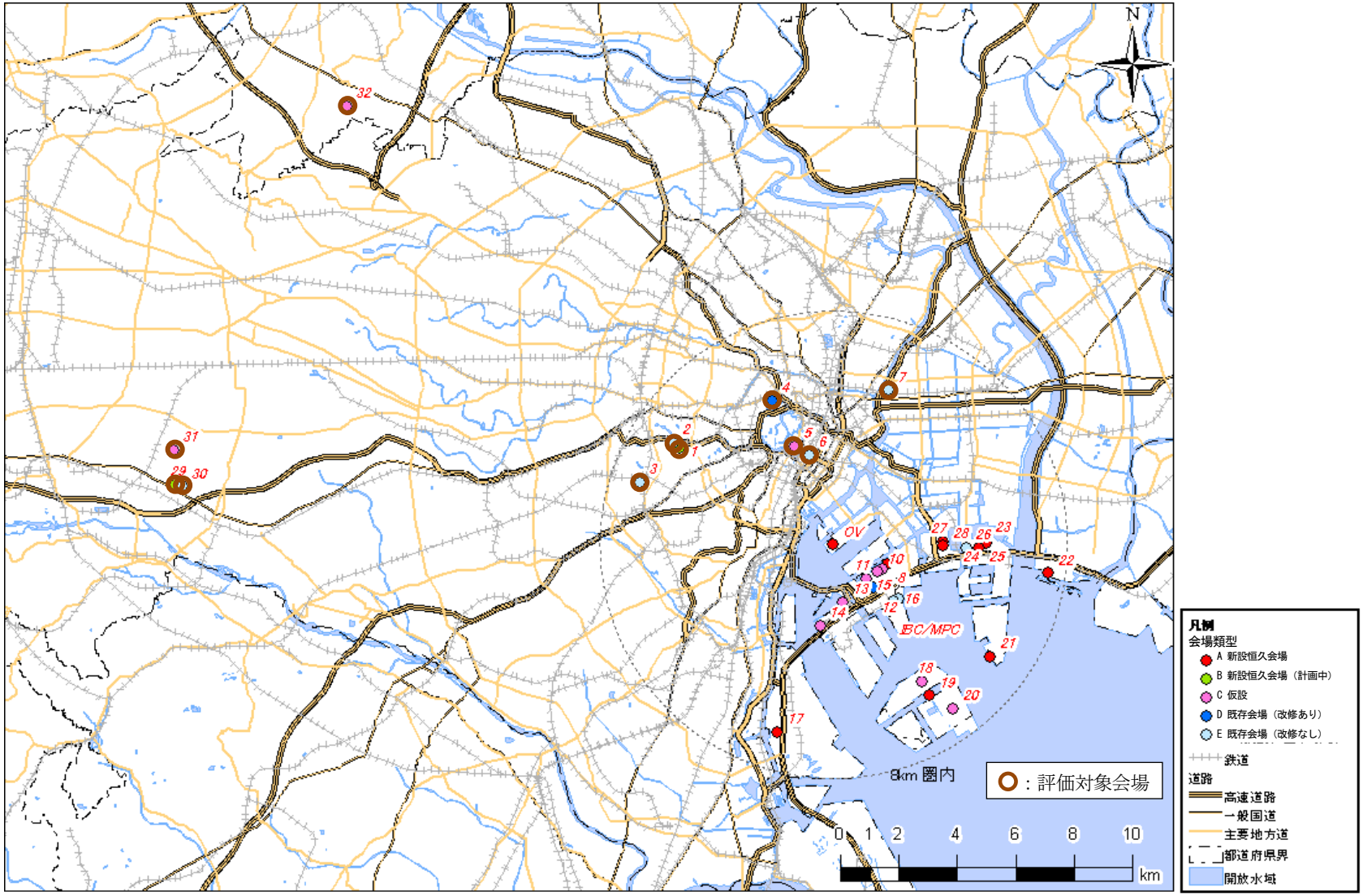

図 5-5-1　評価対象会場位置

※図中の番号は表 1-3-37(p1-85～1-86)に示す会場 No. を表す。

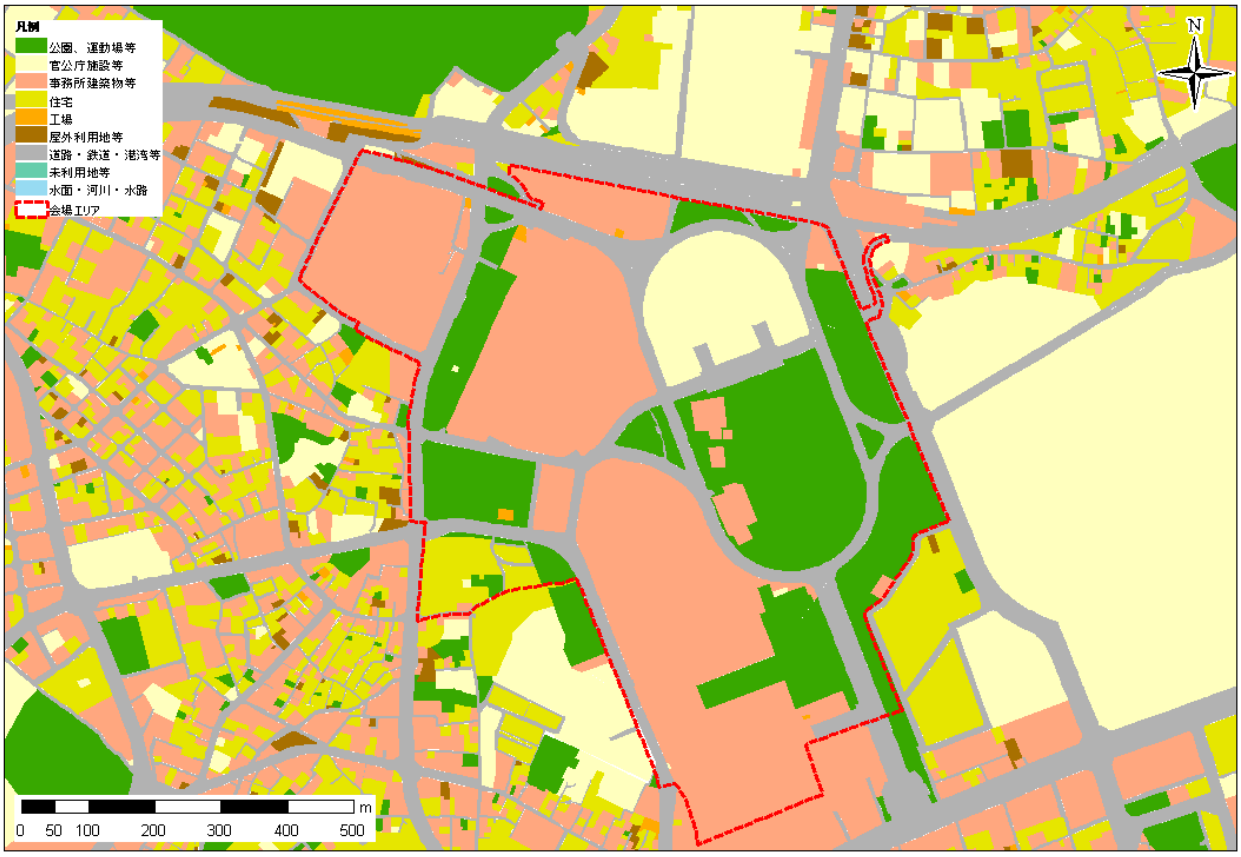

図 5-5-2(1)　現況土地利用図(オリンピックスタジアム（国立霞ヶ丘競技場）、東京体育館)

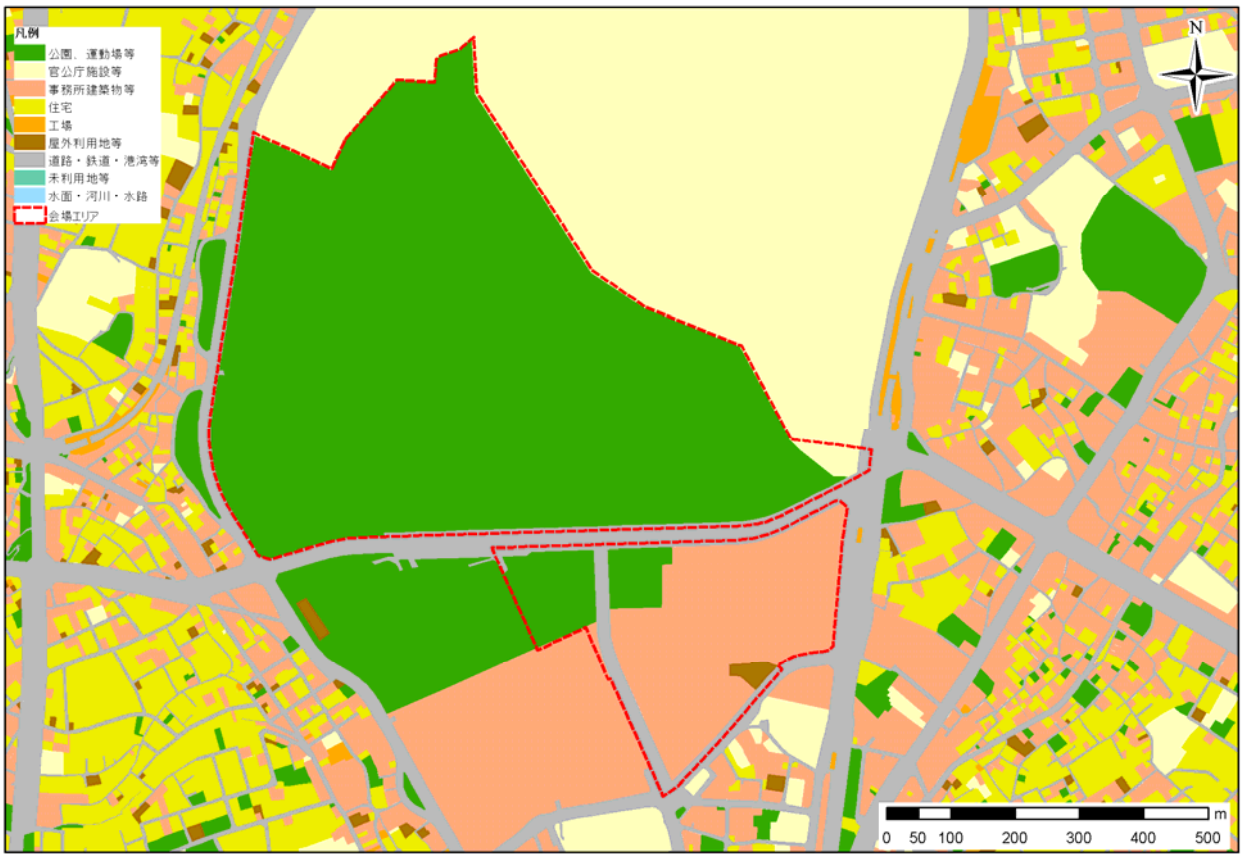

図 5-5-2(2)　現況土地利用図（国立代々木競技場）

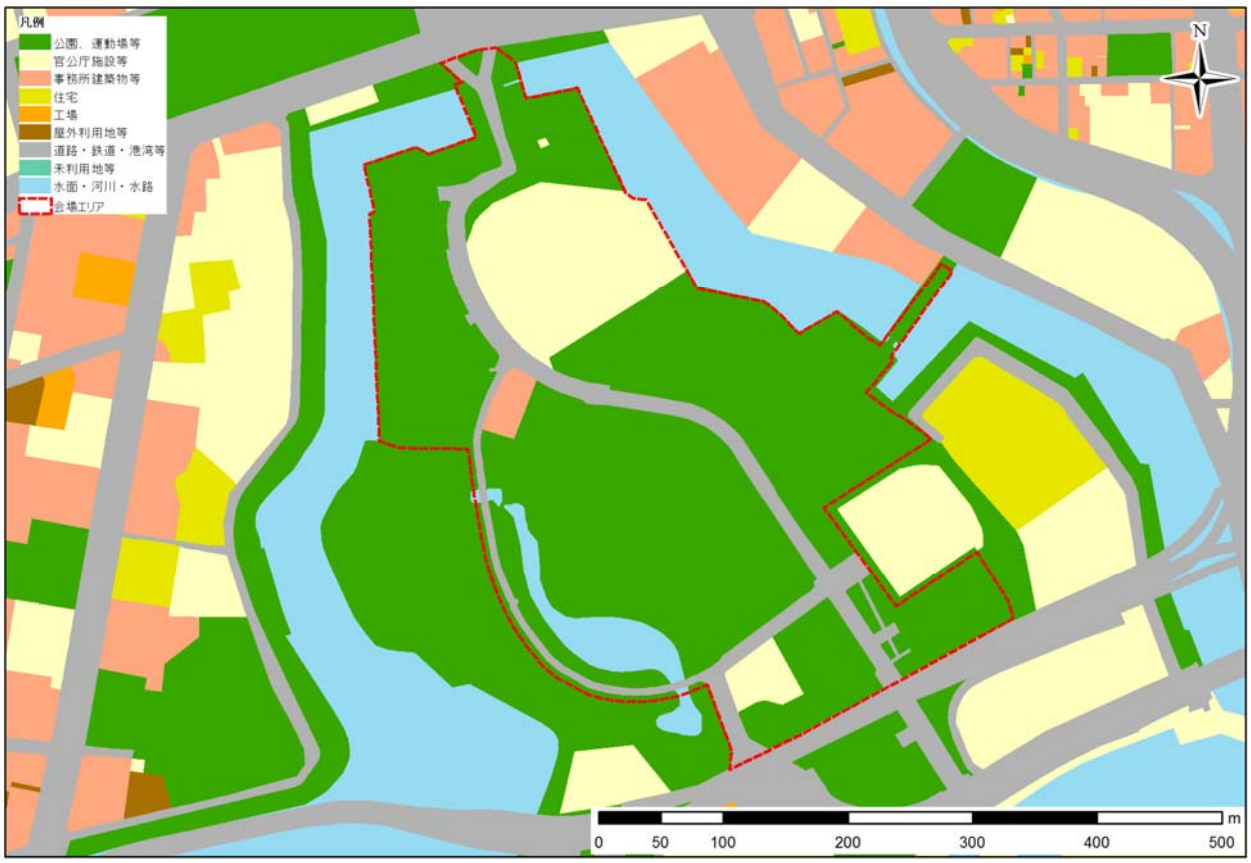

図 5-5-2(3)　現況土地利用図（日本武道館）

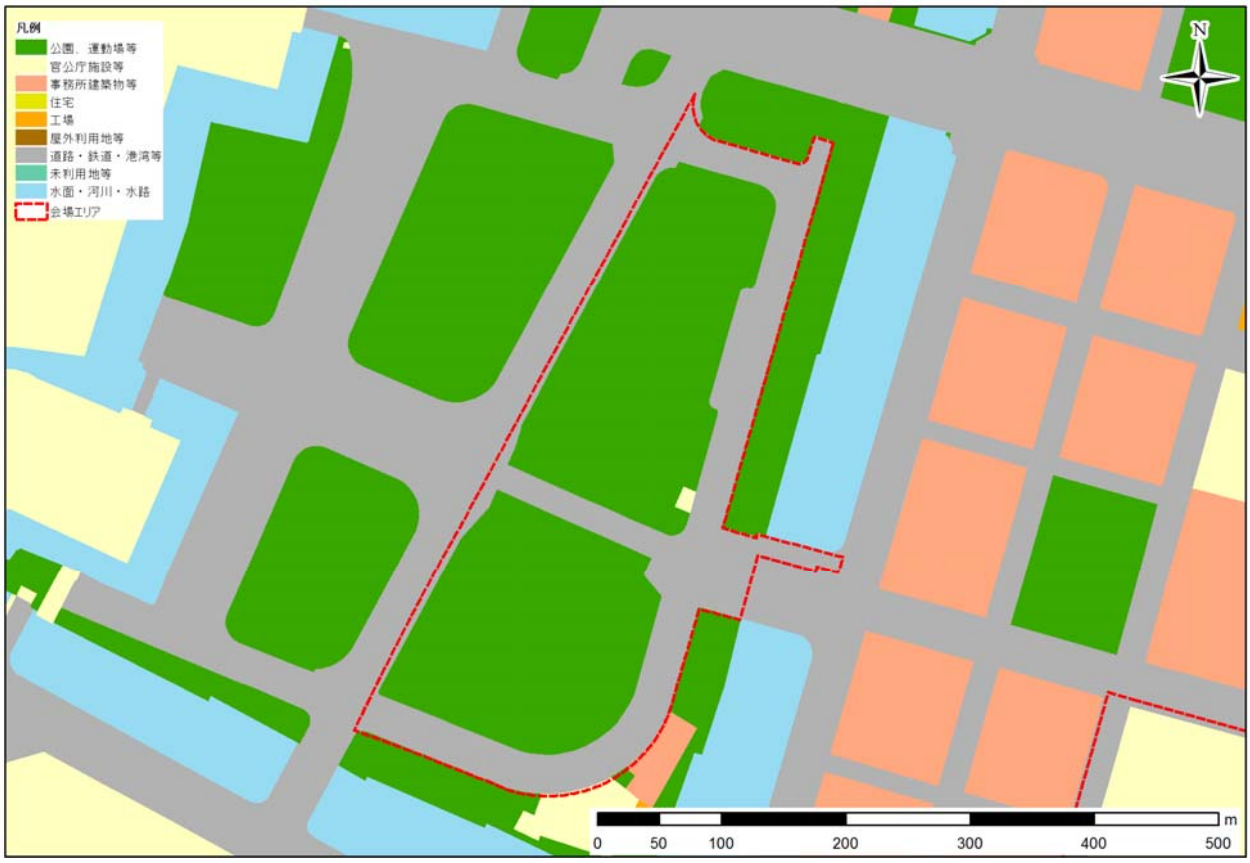

図 5-5-2(4)　現況土地利用図（皇居外苑）

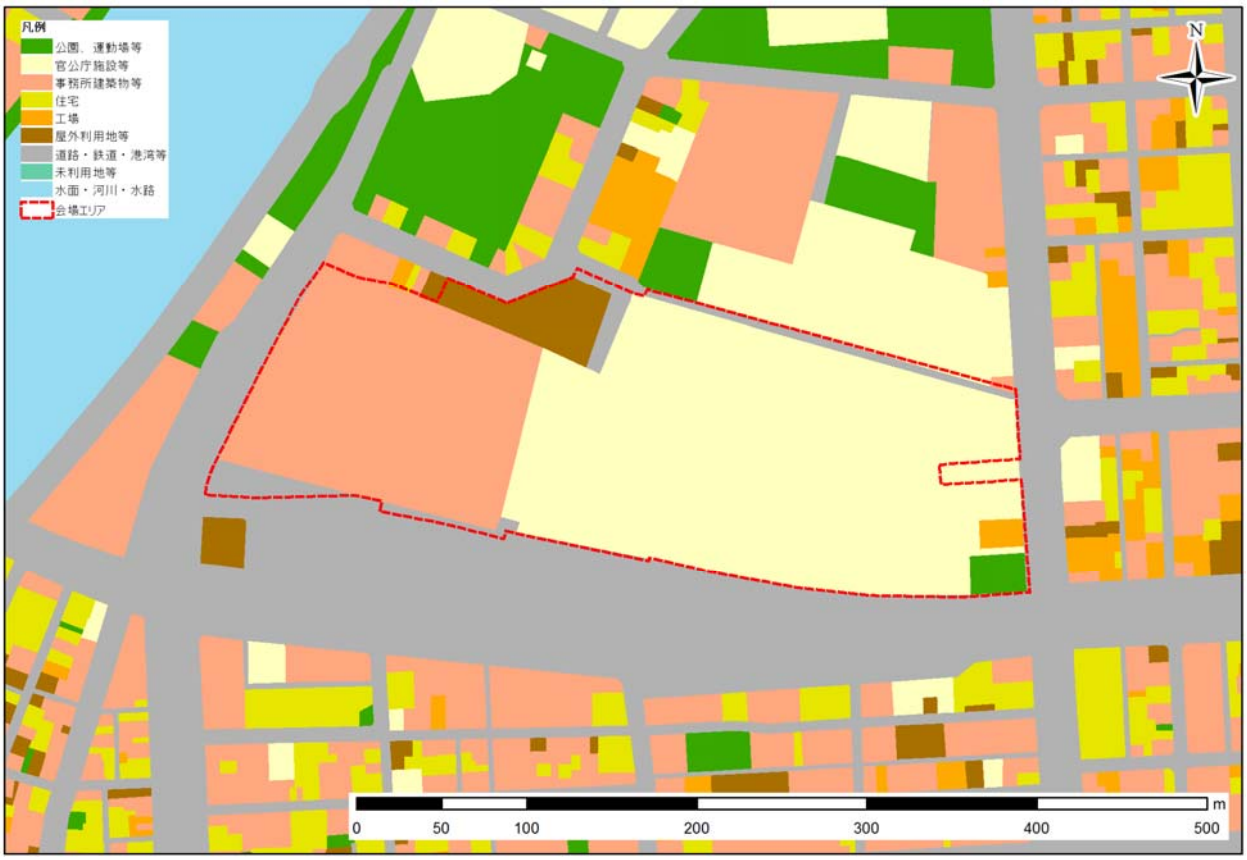

図 5-5-2(5)　　現況土地利用図（国技館）

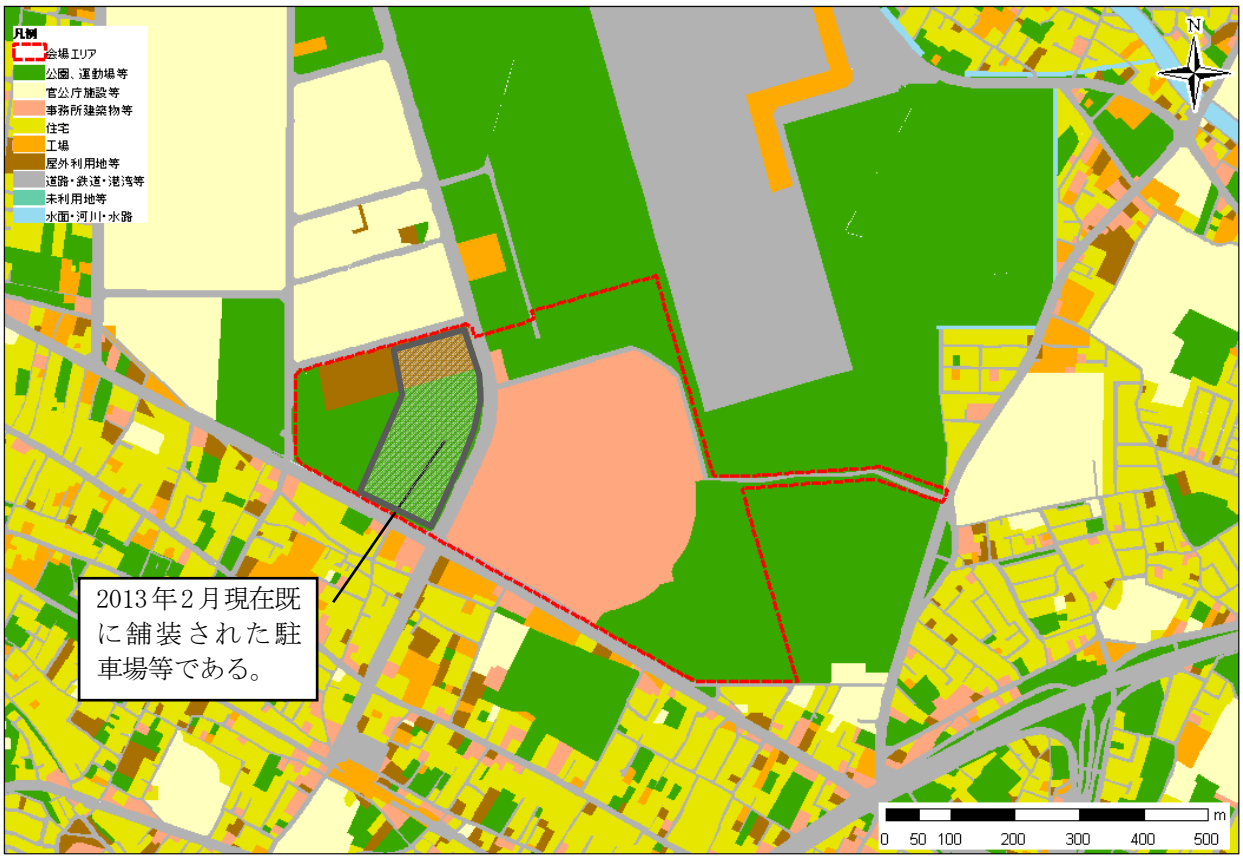

図 5-5-2(6)　現況土地利用図（武蔵野の森総合スポーツ施設、東京スタジアム）

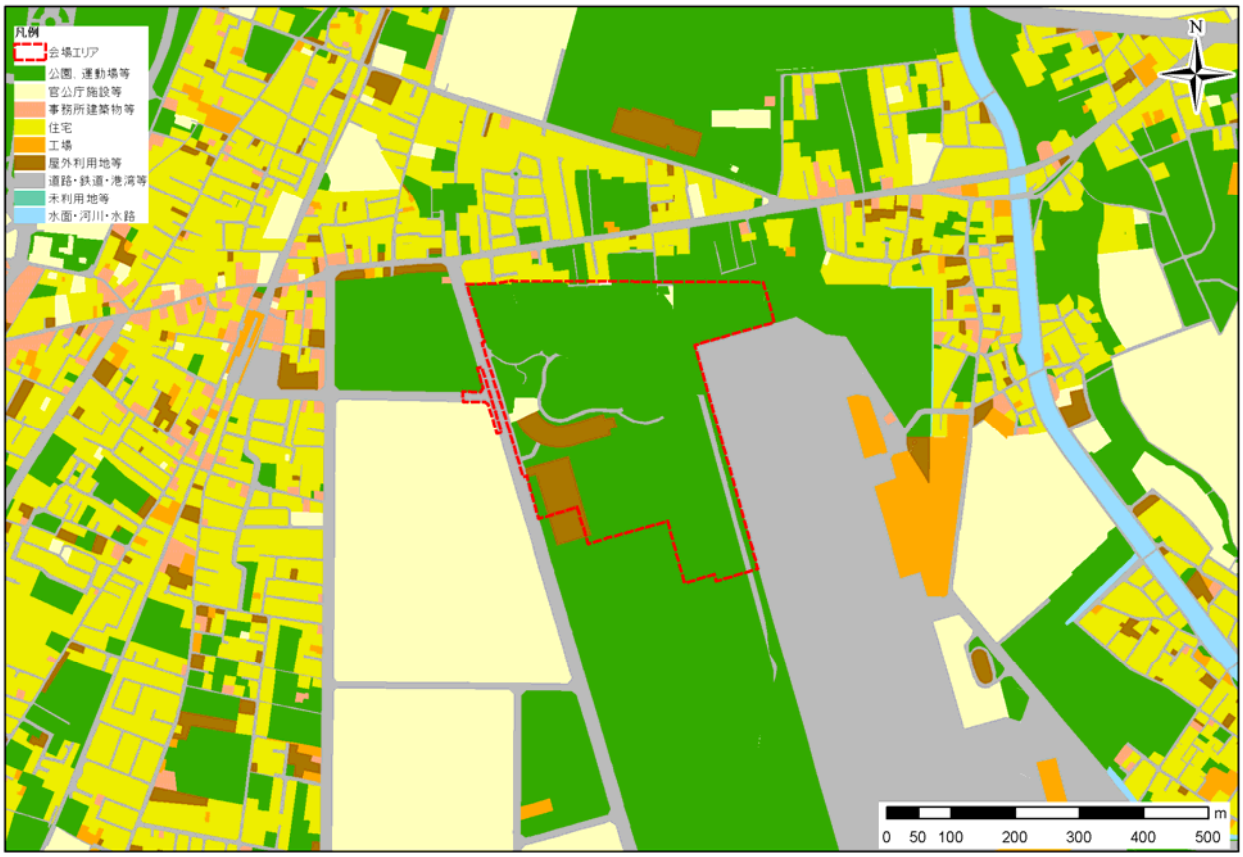

図 5-5-2(7)　現況土地利用図（武蔵野の森公園）

出典：東京都都市計画地理情報システム 平成 18 年度土地利用現況（区部）及び平成 19 年度土地利用現況(多摩部)より作成

5-5-2 予測評価（会場別）

(1) 評価の指標及び目安

雨水の地下浸透能力は、現況の地表面被覆率を評価の基準とした。評価の指標及び目安は表5-5-2に示すとおりである。

表 5-5-2　　評価の指標及び目安

評価の指標	評価の基準	評価の目安				
		－２	－１	０	＋１	＋２
雨水の地下浸透能力(地表面被覆率)	現状の地表面被覆率	地表面の被覆率が大きく増大	地表面の被覆率が増大	現況と変わらない 又は、被覆率が増大するが、対策により現況と変わらない浸透を確保	地表面の被覆率が減少 又は、被覆率が増大するが、対策により現況を上回る浸透を確保	地表面の被覆率が大きく減少 又は、被覆率が増大するが、対策により現況を大幅に上回る浸透を確保

(2) 予測評価の方法

開催中（施設の存在による影響）、開催後（後利用による影響）の雨水の地下浸透能力の変化については、新設する施設及び駐車場等が地表面を被覆するため、土地利用図に新設の施設及び駐車場などの面積を重ね合わせ、増加する被覆(不浸透)面積を定量的に検討し、予測評価を行った。現況土地利用図と改変エリアを重ね合わせた図面を図 5-5-3(p5-5-8～p5-5-12)に示す。

なお、工事に伴い改変される面積は工事の進捗とともに変化(増加)し、施設の存在や後利用において一定(最大)となる。このため、工事による影響は、ここでは予測評価の対象とせず、改変による影響が一定(最大)となる時期において予測評価を行うこととした。

開催中・開催後の被覆(不浸透)面積は以下のように求めた。なお、既に被覆されている部分（駐車場などの不浸透域）に施設が建設される場合は増加分として見込んでいない。

被覆率は、被覆(不浸透)面積を会場面積で除して算出した。

開催中の被覆(不浸透)面積＝現況の被覆(不浸透)面積＋仮設面積＋恒久施設面積
開催後の被覆(不浸透)面積＝現況の被覆(不浸透)面積＋恒久施設面積

表 5-5-3　　予測評価方法（会場別）

予測評価の時期		予測評価の方法
開催前	工事による影響	工事に伴い改変される面積は工事の進捗とともに増加し、施設の存在時に最大となる。このため、工事による影響は、改変による影響が最大となる施設の存在による影響において予測評価を行うこととし、ここでは予測評価の対象外とした。
開催中	施設の存在による影響	施設が存在することにより、地表面積を被覆するため、土地利用図に施設面積を重ね合わせ、増加する被覆(不浸透)面積を定量的に検討し、予測評価を行った。
開催後	工事による影響	工事に伴い改変される面積は工事の進捗とともに変化し、施設の後利用時に定常状態となる。このため、工事による影響は、改変による影響が一定となる後利用による影響において予測評価を行うこととし、ここでは予測評価の対象外とした。
	後利用による影響	開催中（施設の存在による影響）と同様、施設の後利用による地表面の被覆(不浸透)面積の変化を想定し、施設の存在による影響と同様の予測評価を行った。

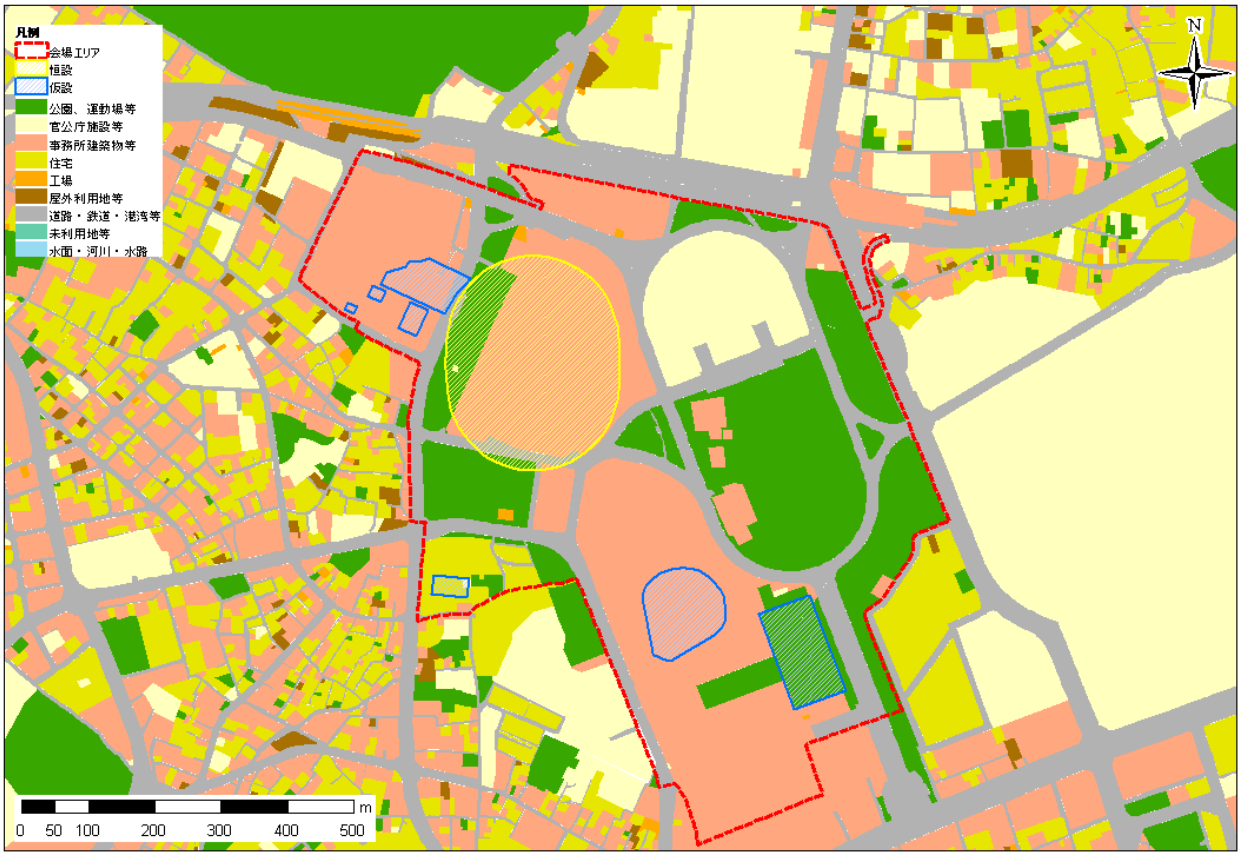

図 5-5-3(1)　現況土地利用図と改変エリア
（オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場）、東京体育館）

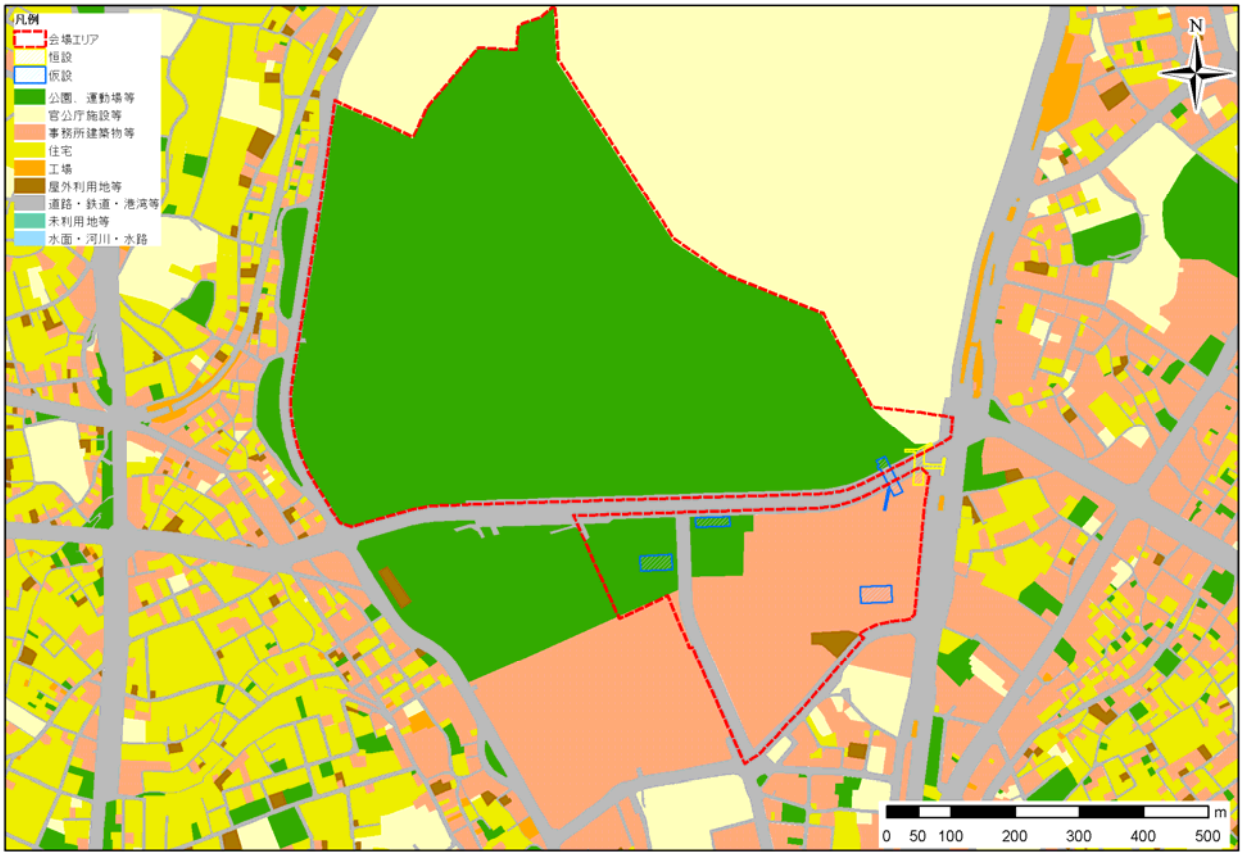

図 5-5-3(2)　現況土地利用図と改変エリア（国立代々木競技場）

図 5-5-3(3)　現況土地利用図と改変エリア（日本武道館）

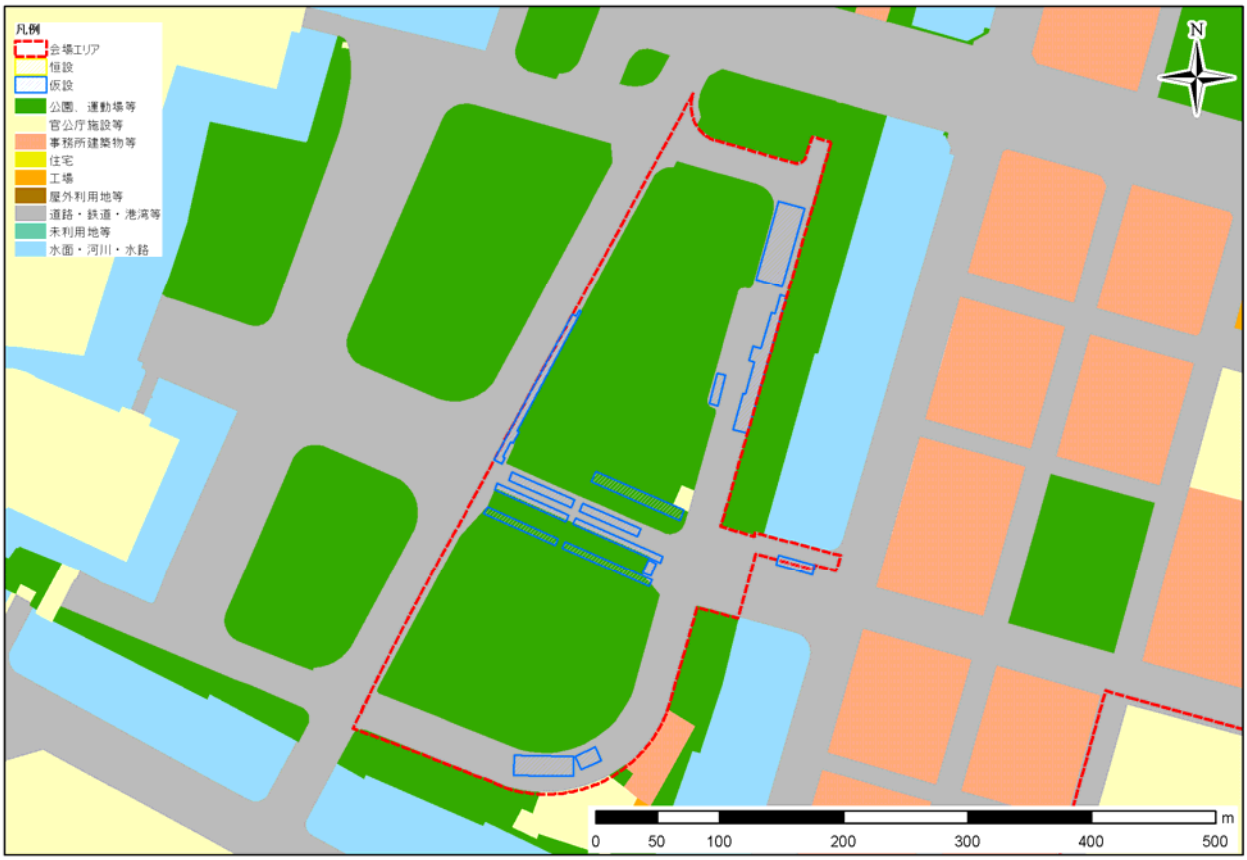

図 5-5-3(4)　現況土地利用図と改変エリア（皇居外苑）

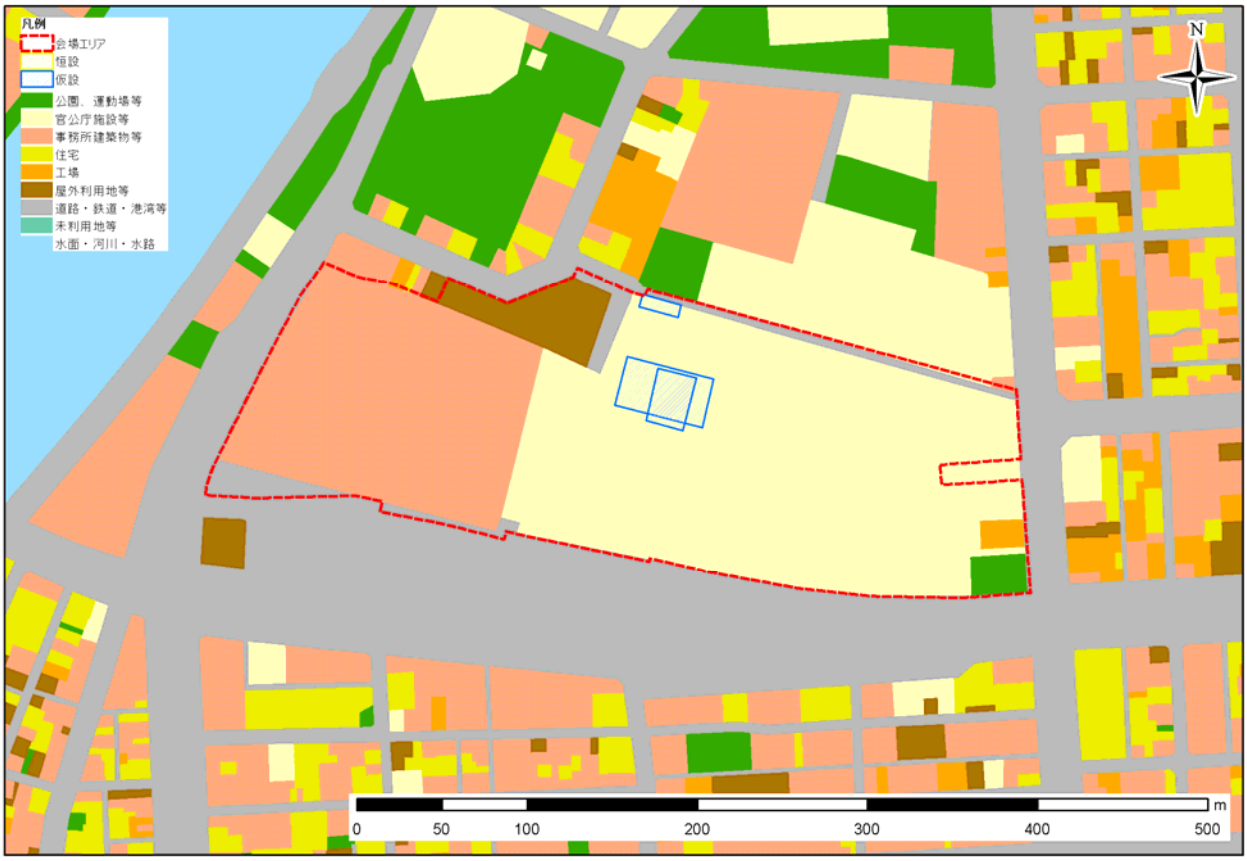

図 5-5-3(5)　　現況土地利用図と改変エリア（国技館）

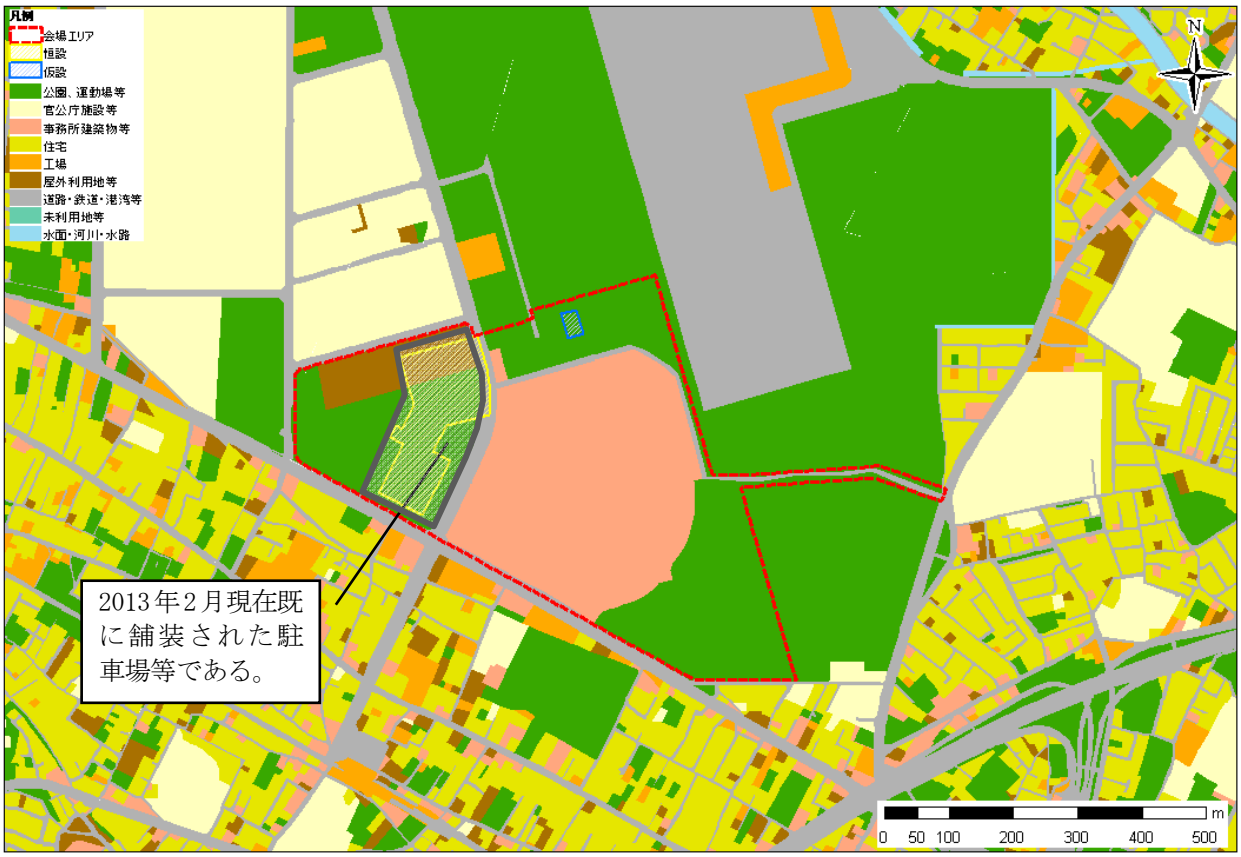

図 5-5-3(6)　現況土地利用図と改変エリア（武蔵野の森総合スポーツ施設、東京スタジアム）

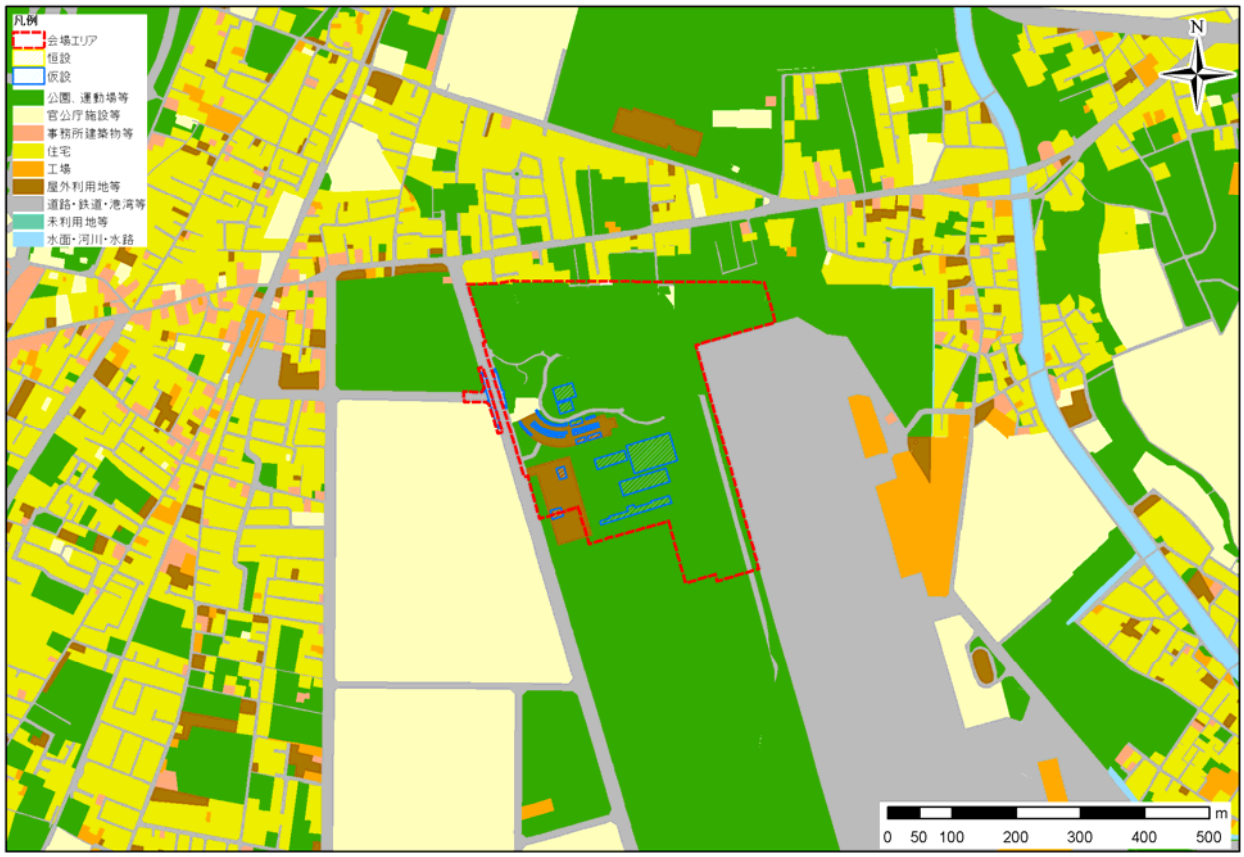

図 5-5-3(7)　現況土地利用図と改変エリア（武蔵野の森公園）

出典：東京都都市計画地理情報システム 平成 18 年度土地利用現況（区部）及び平成 19 年度土地利用現況(多摩部)より作成

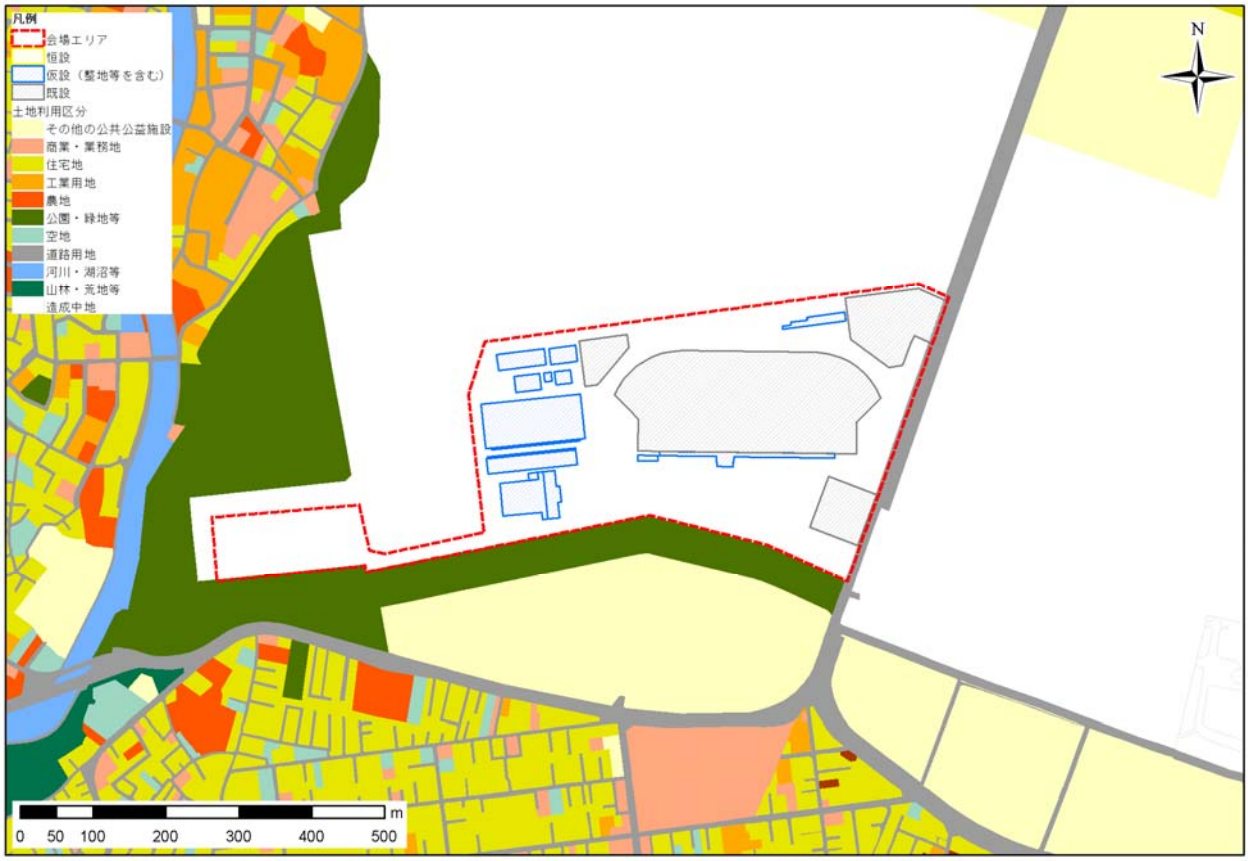

図 5-5-3(8)　現況土地利用図と改変エリア（陸上自衛隊朝霞訓練場）

(3) 予測評価の結果

1) 開催中（施設の存在による影響）

① 一次評価

会場の各施設の存在による、地表面被覆率及び被覆面積の変化について予測を行った。この結果、皇居外苑及び国技館については現況の不浸透域(駐車場、道路等)上に仮設が設置されるため、浸透域の改変は行われず、現況と変わらない。国立代々木競技場、日本武道館、武蔵野の森総合スポーツ施設及び東京スタジアム、武蔵野の森公園、陸上自衛隊朝霞訓練場については地表面の被覆率がわずかに増加（現況より５ポイント未満増加）するが、現況とほぼ変わらない。したがって、これらの会場について評価結果は「０」とした。

オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)及び東京体育館においては、既存の樹林地が改変され、被覆率が増加することから、評価結果を「－１」とした。

施設毎の被覆率の算出結果を表 5-5-4 に、一次評価の結果を表 5-5-5 に示す。

表 5-5-4　被覆率及び被覆面積（開催中：一次評価）

会場No.	会場名	会場面積(m²)	被覆面積（m²）		被覆率（%）		被覆率の増減ポイント(開催中-現況)
			現況	開催中	現況	開催中	
1	オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)	583,400	419,600	525,300	71.9	90.0	+18.1
2	東京体育館						
3	国立代々木競技場	582,500	114,300	116,600	19.6	20.0	+0.4
4	日本武道館	146,700	36,700	37,000	25.0	25.3	+0.3
5	皇居外苑	102,900	36,200	36,200	35.2	35.2	0
7	国技館	64,100	63,300	63,300	98.8	98.8	0
29	武蔵野の森総合スポーツ施設	279,100	178,600	179,600	64.0	64.3	+0.3
30	東京スタジアム						
31	武蔵野の森公園	151,700	24,400	29,200	16.1	19.2	+3.1
32	陸上自衛隊朝霞訓練場	203,900	不明	現況 +8,300	不明	現況 +4.1	+4.1

注) オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)及び東京体育館、武蔵野の森総合スポーツ施設及び東京スタジアムは会場エリアが一体のため、あわせて計算を行った。

表 5-5-5　　水循環についての評価結果（開催中：一次評価）

会場No.	会場名	評価結果	一次評価
1	オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)	-1	新設(恒久)は現況の公園内の樹林上に設置されることより、浸透域が減少する。したがって、評価結果は「-1」とした。
2	東京体育館		
3	国立代々木競技場	0	浸透域の一部が改変されるが、被覆率はほとんど現況と変わらない。したがって、評価結果は「0」とした。
4	日本武道館	0	仮設は現況の不浸透域上に設置される。新設の地下室により一部浸透域の改変が行われるが、ほとんど現況と変わらない。したがって、評価結果は「0」とした。
5	皇居外苑	0	仮設は現況の不浸透域上（道路）に設置されることより、浸透域の改変は行われることはなく、現況と変わらない。したがって、評価結果は「0」とした。
7	国技館	0	仮設は現況の不浸透域上（デッキ、駐車場など）に設置されることより、浸透域の改変は行われることはなく、現況と変わらない。したがって、評価結果は「0」とした。
29	武蔵野の森総合スポーツ施設	0	浸透域(グランド)の一部に仮設が設置されるが、被覆率はほとんど現況と変わらない。したがって、評価結果は「0」とした。
30	東京スタジアム		
31	武蔵野の森公園	0	仮設により浸透域の一部が改変されるが、被覆率はほとんど現況と変わらない。したがって、評価結果は「0」とした。
32	陸上自衛隊朝霞訓練場	0	仮設により浸透域の一部が改変されるが、被覆率はほとんど現況と変わらない。したがって、評価結果は「0」とした。

注）オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)及び東京体育館、武蔵野の森総合スポーツ施設及び東京スタジアムは会場エリアが一体のため、あわせて評価を行った。

② ミティゲーション

一次評価の結果、浸透域が減少するオリンピックスタジアム(国立霞ヶ関競技場)及び東京体育館においては、雨水浸透マス・トレンチの採用、駐車場や通路、歩道への雨水浸透側溝や浸透性舗装の採用、施設への雨水貯留・透水施設の設置など「東京都雨水浸透指針」により、雨水の地下浸透能力の拡大に努めることとする。

なお、実施段階における計画の具体化にあわせ、新設施設の設計段階及び既存施設の改修機会がある場合には、雨水浸透対策を実施し、浸透量の増大を検討するとともに、浸透不適地に立地する会場においては、雨水の有効利用による上水利用量の削減や雨水貯留による洪水対策等により、健全な水循環の維持に努める。

また、「2020 年の東京」における目標として、施設周辺についても、駐車場など都市空間のすきまの緑化、公立小中学校の校庭芝生化等で新たな緑を創出することとしており、健全な水循環の維持に努める。

「東京都雨水浸透指針」

雨水の地下への浸透に当たっては、地下水汚染の防止の観点から、拡水法（地表面又は地表近くの地層を通して、雨水を自然に地下へ浸透させる方法をいう。）を用いた次に掲げる雨水浸透施設等により行うものとする。雨水浸透施設の構造等は、以下のとおりとする。

【雨水浸透ます】（主に面積の広くない屋根を対象とする）

集水機能と透水機能とを有するように、有孔又は多孔性の透水ます、その周辺の砕石の充填層、砕石充填層の外面を覆う透水シート、敷砂、連結管（集水管等）等から構成し、必要に応じ、目づまりの防止のためにゴミ除去フィルター等を設ける。

【雨水浸透トレンチ】（屋根の面積が広い場合を対象とする）

浸透・通水機能を有するよう、多孔性の透水管、その周囲を覆う砕石の充填層、砕石充填層の外面を覆う透水シート、敷砂等から構成し、透水管はこう配をつけて設置する。なお、雨水浸透トレンチは、雨水浸透ますとの併用を原則とする。

【透水性舗装】（駐車場、歩道などを対象とする）

表層（空隙率の大きい舗装材）、路盤（砕石等）、フィルター層（敷砂）等から構成する。

【雨水浸透側溝】（駐車場・歩道などを対象とする）

地表面設置の有孔U字溝、敷砂等から構成し、こう配をつけて設置する。

【透水池】（敷地が広く、土地の高低差がある場所を対象とする）

雨水調整池等の雨水の貯留施設の底部に、雨水浸透ます等及び堆砂池を設置した構成とする。

【地表面の緑地化】

地表面からの雨水の流出率を減少させ、浸透量の増大を図るように、芝等の適当な植物を植栽するものとする。

また、地下への浸透を推進する地域は、次に掲げる地域を除く地域とする。

1)地盤の雨水浸透能力が低く、浸透効果を期待できない地域(地下水位が高い地域、地盤の低い地域等)

2)雨水を地下へ浸透させることにより防災上の支障が生じるおそれのある地域(地すべりのおそれのある地域、急傾斜地で崩壊の危険がある地域等)

出典：東京都雨水浸透指針（平成 13 年、東京都）

③　二次評価

オリンピックスタジアム(国立霞ヶ関競技場)及び東京体育館においては、「東京都雨水浸透指針」により、雨水浸透マス・トレンチの採用、駐車場や通路、歩道への雨水浸透側溝や浸透性舗装の採用、施設への雨水貯留・透水施設の設置など雨水の地下浸透能力の拡大に努めることにより、現況と同程度の浸透を確保できると想定し、二次評価の結果を「０」とした。

他の会場については、一次評価の結果、各会場の地表面の被覆率は増大しないことから、現段階でのミティゲーションは想定せず、各会場の評価結果は一次評価と同様、いずれも「０」とした。なお、計画の実施段階においては、計画の具体化にあわせ地下浸透能力の拡大に努め、雨水の地表面流出率を減少させ、浸透量の増大をはかるため可能な限り敷地内の緑化に努める。

また、「2020 年の東京」における目標として、施設周辺についても、駐車場など都市空間のすきまの緑化、公立小中学校の校庭芝生化等で新たな緑を創出することとしており、健全な水循環の維持に努める。

2) 開催後（後利用による影響）

① 一次評価

2020 年東京大会後の各会場の存在による、地表面被覆率の変化及び被覆面積について予測を行った。

日本武道館については、開催中と同様、新設（恒久）による改変によって地表面の被覆率がわずかに増加（現況より５ポイント未満増加）するが、現況とほぼ変わらない。したがって、評価結果は「０」とした。

オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)においては、仮設が撤去されるが新設（恒久）により既存の樹林地が改変されたままであり、被覆率が増加することから、評価結果を「－１」とした。

その他評価対象とした会場については、仮設が撤去されるため、浸透域の改変は行われず、現況と変わらない。したがって評価結果は「０」とした。

会場毎の被覆率の算定結果を表 5-5-6 に、一次評価の結果を表 5-5-7(p5-5-18)に示す。

表 5-5-6　被覆率及び被覆面積（開催後後利用による影響：一次評価）

会場No.	会場名	会場面積(m²)	被覆面積（m²）		被覆率（%）		被覆率の増減ポイント(開催後-現況)
			現況	開催後	現況	開催後	
1	オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)	583,400	419,600	452,600	71.9	77.6	+5.7
2	東京体育館						
3	国立代々木競技場	582,500	114,300	114,400	19.6	19.6	0
4	日本武道館	146,700	36,700	37,000	25.0	25.3	+0.3
5	皇居外苑	102,900	36,200	36,200	35.2	35.2	0
7	国技館	64,100	63,300	63,300	98.8	98.8	0
29	武蔵野の森総合スポーツ施設	279,100	178,600	178,600	64.0	64.0	0
30	東京スタジアム						
31	武蔵野の森公園	151,700	24,400	24,400	16.1	16.1	0
32	陸上自衛隊朝霞訓練場	203,900	不明	現況と同じ	不明	現況と同じ	0

注）オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)及び東京体育館、武蔵野の森総合スポーツ施設及び東京スタジアムは会場エリアが一体のため、あわせて計算を行った。

表 5-5-7　　水循環についての評価結果（開催後：一次評価）

会場No.	会場名	評価結果	一次評価
1	オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)	-1	新設(恒久)は現況の公園内の樹林上に設置されることより、浸透域が減少する。したがって、評価結果は「-1」とした。
2	東京体育館		
3	国立代々木競技場	0	浸透域の一部が改変されるが、被覆率はほとんど現況と変わらない。したがって、評価結果は「0」とした。
4	日本武道館	0	新設の地下室により一部浸透域の改変が行われるが、ほとんど現況と変わらない。したがって、評価結果は「0」とした。
5	皇居外苑	0	仮設は撤去されることより、浸透域の改変は行われることはない。したがって、評価結果は「0」とした。
7	国技館	0	仮設は撤去されることより、浸透域の改変は行われることはない。したがって、評価結果は「0」とした。
29	武蔵野の森総合スポーツ施設	0	仮設は撤去されることにより、浸透域の改変は行われることはない。したがって、評価結果は「0」とした。
30	東京スタジアム		
31	武蔵野の森公園	0	仮設は撤去されることより、浸透域の改変は行われることはない。したがって、評価結果は「0」とした。
32	陸上自衛隊朝霞訓練場	0	仮設は撤去されることより、浸透域の改変は行われることはない。したがって、評価結果は「0」とした。

注）オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)及び東京体育館、武蔵野の森総合スポーツ施設及び東京スタジアムは会場エリアが一体のため、あわせて評価を行った。

② ミティゲーション

一次評価の結果、浸透域が減少するオリンピックスタジアム(国立霞ヶ関競技場)及び東京体育館においては、雨水浸透マス・トレンチの採用、駐車場や通路、歩道への雨水浸透側溝や浸透性舗装の採用、施設への雨水貯留・透水施設の設置など「東京都雨水浸透指針」により、雨水の地下浸透能力の拡大に努めることとする。他の会場については一次評価の結果、各会場の地表面の被覆率は増大しないことから、現時点ではミティゲーションは想定していない。ただし、仮設施設が緑地に設置される会場においては、雨水の地表面流出率を現況と同程度にするため、仮設撤去跡地の原状復帰を行う。

なお、実施段階における計画の具体化にあわせ、新設施設の設計段階及び既存施設の改修機会がある場合には、雨水浸透対策を実施し、浸透量の増大を検討するとともに、浸透不適地に立地する会場においては、雨水の有効利用による上水利用量の削減や雨水貯留による洪水対策等により、健全な水循環の維持に努める。

また、施設周辺については、「2020 年の東京」における目標として、駐車場など都市空間のすきまの緑化、公立小中学校の校庭芝生化等で新たな緑を創出することとしており、健全な水循環の維持に努める。

③ 二次評価

オリンピックスタジアム(国立霞ヶ関競技場)及び東京体育館においては、「東京都雨水浸透指針」により、雨水浸透マス・トレンチの採用、駐車場や通路、歩道への雨水浸透側溝や浸透性舗装の採用、施設への雨水貯留・透水施設の設置など雨水の地下浸透能力の拡大に努めることにより、現況と同程度の浸透を確保できると想定し、二次評価の結果を「０」とした。

他の会場については、一次評価の結果、各会場の地表面の被覆率は増大しないことから、現段階でのミティゲーションは想定せず、各会場の評価結果は一次評価と同様、いずれも「０」

とした。なお、仮設施設が緑地に設置される会場においては、雨水の地表面流出率を現況と同程度にするため、仮設撤去跡地の原状復帰を行う。

また、施設周辺については、「2020 年の東京」における目標として、駐車場など都市空間のすきまの緑化、公立小中学校の校庭芝生化等で新たな緑を創出することとしており、健全な水循環の維持に努める。

(4) 評価結果の総括

水循環の一次評価及び二次評価結果をとりまとめると表 5-5-8 のとおりとなる。

一次評価の結果、オリンピックスタジアム（国立霞ヶ丘競技場）及び東京体育館で被覆率が増大するため、マイナスの評価となった。二次評価の結果、被覆率が現況と変わらない又は対策により現況と変わらない浸透を確保するため、すべての会場で「０」となる。

表 5-5-8　水循環の評価結果総括表

会場		評価点(一次)						評価点(二次)					
		開催前		開催中		開催後		開催前		開催中		開催後	
No.	名称	工事影響	招致等の影響	存在影響	競技の影響	工事影響	後利用の影響	工事影響	招致等の影響	存在影響	競技の影響	工事影響	後利用の影響
1	オリンピックスタジアム(国立霞ヶ丘競技場)	－		-1		－	-1	－		0		－	0
2	東京体育館	－		-1		－	-1	－		0		－	0
3	国立代々木競技場	－		0		－	0	－		0		－	0
4	日本武道館	－		0		－	0	－		0		－	0
5	皇居外苑	－		0		－	0	－		0		－	0
6	東京国際フォーラム	－		－		－	－	－		－		－	－
7	国技館	－		0		－	0	－		0		－	0
8	有明アリーナ	－		－		－	－	－		－		－	－
9	有明ＢＭＸコース	－		－		－	－	－		－		－	－
10	有明ベロドローム	－		－		－	－	－		－		－	－
11	有明体操競技場	－		－		－	－	－		－		－	－
12	有明テニスの森	－		－		－	－	－		－		－	－
13	お台場海浜公園	－		－		－	－	－		－		－	－
14	潮風公園	－		－		－	－	－		－		－	－
15～16	東京ビッグサイト・ホールＡ、Ｂ	－		－		－	－	－		－		－	－
17	大井ホッケー競技場	－		－		－	－	－		－		－	－
18	海の森クロスカントリーコース	－		－		－	－	－		－		－	－
19	海の森水上競技場	－		－		－	－	－		－		－	－
20	海の森マウンテンバイクコース	－		－		－	－	－		－		－	－
21	若洲オリンピックマリーナ	－		－		－	－	－		－		－	－
22	葛西臨海公園	－		－		－	－	－		－		－	－
23～24	夢の島ユース・プラザ・アリーナＡ、Ｂ	－		－		－	－	－		－		－	－
25	夢の島公園	－		－		－	－	－		－		－	－
26	夢の島競技場	－		－		－	－	－		－		－	－
27～28	オリンピックアクアティクスセンター ウォーターポロアリーナ	－		－		－	－	－		－		－	－
29	武蔵野の森総合スポーツ施設	－		0		－	0	－		0		－	0
30	東京スタジアム	－		0		－	0	－		0		－	0
31	武蔵野の森公園	－		0		－	0	－		0		－	0
32	陸上自衛隊朝霞訓練場	－		0		－	0	－		0		－	0
33	霞ヶ関CC	－		－		－	－	－		－		－	－
34	札幌ドーム	－		－		－	－	－		－		－	－
35	宮城スタジアム	－		－		－	－	－		－		－	－
36	埼玉スタジアム2○○2	－		－		－	－	－		－		－	－
37	横浜国際総合競技場	－		－		－	－	－		－		－	－
OV	選手村	－		－		－	－	－		－		－	－
IBC/MPC	東京ビッグサイト(IBC/MPC)	－		－		－	－	－		－		－	－

※会場№は、表 1-3-37（p1-85～1-86）に示す会場№を表す。
※評価点の目安は以下のとおりである。
+2：大きなプラスの影響
+1：ある程度のプラスの影響
0：中立
-1：ある程度のマイナスの影響
-2：大きなマイナスの影響
－ ：予測評価の検討において対象外とした影響
■ ：網掛けは非該当項目のため対象外とした影響